～美園小の重点取組項目～

【学校課題への対応】

みんなが楽しく過ごせるように、発達障害傾向のある子ども達の理解や適切な支援が行えるようにする。

教室環境

1　視覚刺激に配慮した環境の調整

・黒板のある教室前面は、できるだけ掲示物を貼らない。棚などには、カーテンを付ける。

2　児童の実態に合わせた座席配置

・個別の指示が必要な児童や、周囲の動きに反応してしまう児童は、前の席にしてモデルとなる子の隣の席にする。

教室前面に掲示物を貼らない。

話し方・指示

1　指示は端的にして、してほしい行為は一文に一つ程度。話す内容は整理して順序立てて伝える。

きちんと注意を引いてから、短くわかりやすい指示をする。（一つ目は・・二つ目は・・など）

2　口頭の指示だけでなく、可能な限り視覚化（文字化）して伝える。

算数のノートの書き方を黒板に指示。（５マスあける。）

国語の学習で、本時にすることを番号で箇条書きで黒板に指示。

授業

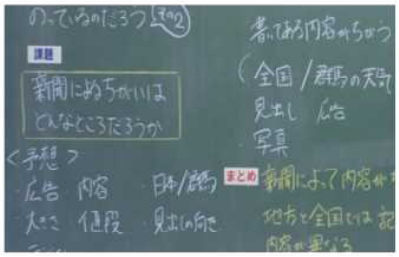
1　集中力を持続させるため、場面転換やメリハリのある授業づくり

2　分かりやすい板書の工夫

・視覚に配慮した効果的な板書をする。

・チョークの色、アンダーライン、囲み、記号など

①



めあて、かだい、まとめカードを使用した板書。

②

グループでの話合いを入れ、メリハリのある学習形態。

③

視覚に配慮しながら、ＩＣＴを活用した教材提示。

児童理解

1　自己肯定感を高めるため、少しでもできたところをほめる。

・否定的な指示はしないで肯定的・具体的な指示をする。

例）廊下は走らない　→　廊下は歩きます。

・教師間で児童の情報交換を行い、よいところを認めていく。

・障害の特性から同じようにできないことを理解し、２５％できたらほめる。

ほめていた例：

・発表した児童の答えが間違っていても、直接は伝えず、発表したこと自体を賞賛するような声掛けをしていた。(「そうだね、なるほど」

・問題を解かせる場面で、机間支援の際に、児童が問題を早く解いたときに、「すごい、すごい」と一人一人に声掛けをしていた。

・国語の発表の場において、挙手した児童を全て指名し、考えた内容を賞賛しながら、黒板に記録として残し、自信につながる声掛けをしていた。